

「ようきてちよーた」=瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味。

ようきてちよーた瀬戸!

編集:瀬戸市おもてなしボランティア
季刊誌作成チーム
発行:瀬戸市 まるっとミュージアム課

№30 2014. 11. 28

特集 瀬戸市の野外彫刻

瀬戸市文化センターを始め、パーティセと、やすらぎ会館などの公共施設に、数多くの彫刻が設置されています。

今回、記念碑的な作品を除き、地元出身の彫刻家の作品に注目し、作品と設置場所を紹介します。

いま一度、ゆっくり現地で作品を鑑賞される事をお薦めします。



第18回日展
文部大臣賞受賞

思考

リモージュ広場
(パーティセとバスロータリー)
長江録彌 作



月に翔ぶ

瀬戸市文化センター構内
加藤昭男 作

祥風

瀬戸商工会議所 前庭
亀谷政代司 作



美術館やギャラリー以外の広場や公園など、公共的な空間に設置された芸術作品をパブリックアート (public art) といい、設置される空間の環境的な特殊性や周辺との関係性において、空間の魅力を高める役割を持っており、公共空間を構成する要素となっています。

記念碑的なものや、建築の壁画・音・風・光などを利用したものも含まれています。



大きく浚えて

新世紀工芸館 前庭
長江録彌 作
(市政施行 70 周年記念
寄贈ロータリークラブ)



ダフネ

瀬戸蔵 前庭
亀谷政代司 作
(第 26 回日展 出展作品)



慈愛

陶生病院
玄関前ロータリー
長江録彌 作



歩く

やすらぎ会館入り口正面
長江録彌 作



希望

リモージュ広場 (5 点)
(パーティセと バスロータリー)
長江録彌 作



芽

「思考」は表紙に掲載



読書

デジタルリサーチパークセンター
長江録彌 作



鳩を放つ

愛知環状鉄道
瀬戸市駅 駅前広場
加藤昭男 作



緑の風

瀬戸市文化センター構内 (4 点)
加藤昭男 作

「月に翔ぶ」は表紙に掲載



仔犬に天使



砂丘

乾漆彫刻その一 (ブロンズ製)



月から舞い降りた兔

加藤昭男
(かとうあきお)

1927 年瀬戸市生まれ
彫刻家としての原風景は、生まれ故郷、瀬戸の広大な粘土の山にあり、土と生物を相手にした少年時代に培った感受性、粘土の山での自然との対話である。

氏の造形思考では、「人は生き物であり、生き物は人である」という彫刻家の表現である。人と生き物は境界を超えて、お互いに引き合い、反発しながら共存する。

(GalleryTOM より抜粋)

長江録彌
(ながえろくや)

1926 年瀬戸市生まれ
2005 年没

64 年、65 年に連続で日展特選入賞、91 年日本芸術院賞を受賞、日本芸術院会員、98 年に瀬戸市名誉市民となる。作品は旧来の枠にとらわれない、人間性の表現をテーマとし歴史上の人物、信仰に傾注する聖人の姿、自身の体験をモチーフに具現化してきた。乾漆の作品では、古来からの技法を再確立し、代表的な技法となっている。

(Daily SANQ 2009/09/16 の記事より抜粋)

亀谷政代司
(かめたにまさよし)

1952 年名古屋市生まれ
長江録彌に師事、仏像は信仰や心の拠り所としての役割を果たすものと考え、氏は現代彫刻と仏師の間を行き来し、模した形づくりが得意とされている。

(以真伝真より抜粋)

加藤顕清
(かとうけんせい)

1894 年岐阜県生まれ
1966 年没
東京美術学校彫刻科、研究課卒業。36 年、日本彫刻家協会を結成。52 年、日本芸術院賞受賞。62 年、日本芸術院会員 日展理事。



磁祖 加藤民吉の像

加藤顕清 作

昭和 12 年、民吉の功績を称える碑と共に、窯神神社の境内に設置された彫刻
戦時中、金属類供出の指示で多くのブロンズ像が消滅しましたが、瀬戸の人々の嘆願により、供出を免れたエピソードと共に、いつまでも大切にし、誇りとしたいものです。



狛犬を愛でる陶祖之像

加藤昭男 作

瀬戸公園としても親しまれ、平成 26 年 4 月にリニューアルオープンした「陶祖公園」に新たに設置されたのが、この彫刻です。六角陶碑や六角藤棚と共に公園の見どころでもありますので、ぜひ一度は足を運びお楽しみください。

長江録彌氏の作品 出生地の品野地区にある3点



品野台小学校の入り口に、やや控え目に子どもの像が置かれています。



制多迦童子

品野地域交流センター「ぬくも里」の玄関正面に、2体の像が置かれています。

吟遊詩人



定光寺公園の塑像群

(瀬戸彫塑クラブ会員作、セメント)

定光寺第二駐車場の隣の高台を見上げると、草陰に何やら塑像が見えます。脇の階段を登ると、ショーケースの中に首像が6体、さらにその横に大きな塑像が8体並んでいます。第三駐車場の上にも、大きな目玉を二つの手で支えている像があります。

設置されている場所柄か、少し怖い印象もありますが、いずれもユニークな塑像群です。



《知り〜ず「瀬戸の陶壁」》その7

瀬戸市内で最大級の壁面「作品“88瀬戸”」加藤清之作を紹介します。

名鉄瀬戸線の昔の尾張瀬戸駅（現在の駅より西へ 100m）のあたり、瀬戸川の北側壁面にあるため見過ごされがちですが、大きさはもとより素晴らしい作品です。

(大きさ 3.4m×48.0m)



*この季刊誌「よきてちよーた瀬戸！」は、瀬戸市おもてなしボランティアの季刊誌チームメンバーが、ボランティアの目線で瀬戸の観光情報取材し、作成しています。ぜひ、誌面に対するご意見・ご感想を事務局までお聞かせください。

《瀬戸市おもてなしボランティア事務局》

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1番地の1

TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 HP : <http://www.seto-marutto.info/>

